

議題3 名勝洗足池公園の文化財活用事業について

別紙資料：1 「文化財寄稿集」 2種 2 「春宵の響」プログラム

1、事業報告と令和5年度事業予定

【直近の活用事業報告】

①HPコンテンツ「文化財寄稿集」の追加【別紙資料1】

「名勝洗足池公園」特集コーナー内に「3、名馬池月と千束八幡神社」
「4、袈裟懸(掛)の松と御松庵妙福寺」を追加しました。



文化財寄稿集・
歴史スポットマップへの
二次元コード

②「春宵の響」への協力【別紙資料2】

5月17日(水)18:30~20:00に和楽器音楽イベント「春宵の響」(区役所内の担当は文化振興課)が開催されました。文化財担当は、プログラムの校正や会場アナウンスの内容確認・加筆などの参画を行い、当日参加をして記録を取りました。

- ・当日来場人数：約2,000人
- ・当日所見等：都名勝指定について、開会前のアナウンス内にて説明があるとともに、笛の演奏者で一部楽曲の作曲者でもある福原徹氏と司会者の間でお話がありました。来年はさらに名勝に関する内容を増やすことを予定しています。また、鈴木区長、松原前区長のほか、島田委員長と文化財保護審議会の坂本要会長が来場されました。



オープニング演奏の様子



ライトアップされた演奏の様子

「春宵の響」当日写真

【令和5年度の活用事業予定】

- ##### ①「文化財寄稿集」等 HPコンテンツ・無料配布物の作成・公開
- ・「文化財寄稿集」は2~4稿追加予定です。

② 全国の名馬池月・磨墨伝承の調査と報告

- ・ 7月現在約 75 件の全国事例を収集済みです。今後、内容の分布や傾向を調査し、寄稿集内などで紹介するとともに、連絡協議会でも報告します。

③ 「名勝洗足池公園」活用事業の計画推進

- ・ 第1・2回協議会で委員のみなさまから頂いたご意見を参考に、新たな活用事業を検討中です。今後の協議会にて事業案を発表予定です。

④ 大田区立郷土博物館開催ロビー展示「洗足池周辺の遺跡たち」

- ・ 場所：郷土博物館 1階ロビーケース
- ・ 期間：7月 25日（火）～9月 24日（日）
- ・ 洗足池公園周辺から出土した遺跡や遺物のロビー展示を行います。文化財担当も展示に関わりながら、開催の周知を進めます。

2、文化財アピールポイントのご意見交換（第3回）

【コンセプト】

地元の皆様が考える「洗足池公園内でアピールしたい文化財（歴史文化要素）はなにか？」

【目的】

「名勝洗足池公園」の本質的価値の一つ「歴史文化要素」について、現存する文化財を通じて保護・活用の方法を模索していきます。そこで協議会委員のみなさまに率直なご意見を伺い、その内容に基づいて具体的な文化財の活用方法を検討していきます。

【対象】 協議会委員 複数名（約 10分程度）

□参考□ 洗足池に関わる主な文化財一覧

名勝：「名勝」とは「我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」（東京都文化財保護条例）、
「風致景観の優秀なもので古くから名所として知られているもの又は芸術的若しくは学術的価値の高いもの」（東京都文化財指定基準）

A) 有形文化財等

- ・ 洗足池：日蓮の由来・伝承、浮世絵など
- ・ 勝海舟関連：勝海舟記念館（旧清明文庫、国登録）、勝海舟夫妻墓所（区指定）、西郷南洲留魂詩碑、水盤、徳富蘇峰詩碑（両雄詠嘆之詩碑）
- ・ 星頂山妙福寺：祖師堂（旧七面大明神堂、国登録）、馬頭観世音供養塔（区指定）、袈裟掛けの松
- ・ 千束八幡神社：社殿、一の鳥居、新東京八名勝碑、狛犬など
- ・ 巖島神社（洗足池弁財天）
- ・ その他：名馬池月像、池月橋、中原街道改修碑、清水窪湧水（区指定）

B) 埋蔵文化財包蔵地：勝海舟墓所付近遺跡（No.58、縄文時代）

洗足池公園付近遺跡（No.203、縄文時代）

いけづき せんぞくはちまん 名馬池月と千束八幡神社

名勝洗足池公園-③

所在地：千束八幡神社 南千束2-23-10

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩5分

公開の有無：常時公開（神社への参拝の際はご配慮をお願いします）



千束八幡神社



洗足池を見つめる池月像

洗足池西側にある千束八幡神社は、古くは貞観2年(860)に大分県の宇佐神宮(八幡神の総本宮)から分霊を勧請し、洗足池周辺の鎮守となったという由来の神社です。当神社には、平安時代後期に清和源氏が八幡神を氏神として信仰したことから、源義家や頼朝に関する伝承が残されています。

例えば、当神社は別名「旗上げ八幡」とも呼ばれていますが、これは、頼朝が相模国(現在の神奈川県)の「石橋山の戦」に敗れ、安房(現在の千葉県南部)に逃れたあと、鎌倉に向かう前に洗足池付近に立ち寄って陣を張ったとの言い伝えに由来しています。

さらにこの時、一頭の馬が現れ頼朝の手に渡ります。その柄が、青い毛に白い斑点で、まるで池の水面に映る月のようなため、「池月」と命名したといわれています。この伝承にちなみ、現在の東急大井町線北千束駅は、昭和3~5年(1928~30)の間「池月駅」という駅名でした。

池月はその後、頼朝の家臣の佐々木高綱に下賜されます。高綱と池月は、源範頼、義経が源(木曾)義仲の軍勢を破った「宇治川の戦」で、頼朝が同じく区内の馬込で手に入れた名馬磨墨に乗る梶原景季と、先陣争いを繰り広げました。この出来事から、池月と磨墨は名馬として全国に知れ渡り、現在でも北は青森県、南は鹿児島県まで、大田区以外にもこの2頭に関する伝承が各地に残っています。

千束八幡神社境内のすぐ北東には、池月の銅像が建ち、洗足池を見つめています。また、目の前にかかる池月橋は平成28年(2016)に架け替えられました。全国でも珍しい三連太鼓橋で、昔にタイムスリップしたような風景が広がり、毎年5月には和楽器の音楽イベント「春宵の響」が開催されます。洗足池公園に来園された際は、ぜひフォトスポットにしてみてくださいはいかがでしょうか。

けさかけ ごしょうあんみょうふくじ 袈裟懸(掛)の松と御松庵 妙福寺

名勝洗足池公園-④

所在地：妙福寺 南千束2-2-7

交通アクセス：東急池上線洗足池駅から徒歩2分

公開の有無：公開 5時~17時



袈裟懸(掛)の松



『名所江戸百景』「千束の池袈裟懸松」(大田区立郷土博物館蔵)



妙福寺祖師堂(旧七面大明神堂)

洗足池はかつて「千束郷の大池」と呼ばれていました。それが今の名前となったのは、日蓮宗の開祖である日蓮が池畔で手足を洗った、という伝承にちなむといわれています。

日蓮は晩年、胃腸の病気に悩まされており、弘安5年(1282)、甲斐国(現在の山梨県)身延山から常陸国(現在の茨城県)に湯治に行く途中、信者である池上宗仲の館(現在の池上本門寺付近)に立ち寄り、洗足池にたどり着きました。そこで、袈裟を松にかけて手足を洗ったところ、法華經を守護する七面天女が現れ、日蓮の道中を守護してきたことを伝えたといわれています。洗足池の南東にある御松庵(現在の星頂山妙福寺)は、後世この出来事を記念し、当地の人々がお堂を建てて七面天女像を安置し、さらに松を守る護松堂を建てたことがはじまりという言い伝えもあります。

洗足池の畔に昔から松が植わっていたことは確かなようで、江戸時代の浮世絵師、初代歌川広重の『名所江戸百景』のなかでは「千束の池袈裟懸松」、江戸近郊の地誌である『江戸名所図会』には「千束池袈裟掛松」として描かれました。現在でも妙福寺には、その風景を想像させる松が植わっており、名勝としての歴史的な景観を構成しています。

妙福寺は、もともと台東区浅草にありましたが、昭和2年(1927)に当地に移転し、御松庵と合併して今に至ります。本堂である祖師堂(旧七面大明神堂)は国の登録有形文化財で、正面の水引虹梁(直上の木枠の部分)には日蓮の袈裟と洗足池の水面が彫刻されています。平成16年(2002)の保存修理に関わる調査で、明治時代中期に建築されたことが判明しました。

■公益社団法人 洗足風致協会

(公社)洗足風致協会は、洗足池・小池両地区の自然環境と歴史的景観を守るため、昭和8(1933)年に設立された。時代の変遷により、この地区も開発が進み、宅地化による緑地の減少等の諸問題が生じていた。現在では、歴代会長を中心に、役員・会員が一致協力し、関係行政庁とも連携しながら、環境の保護・育成、並びに啓発活動を行っている。



■大田区立勝海舟記念館

令和元(2019)年夏、洗足池のほとりに、国登録有形文化財である旧清明文庫を保存・活用した勝海舟記念館が開館した。勝海舟と大田区との縁を紹介するとともに、海舟の思いや事蹟、地域の歴史等を伝えている。

海舟は明治時代になってこの地に別荘「洗足軒」を構えた。現在も洗足池の周辺には、海舟夫婦が眠る墓所があり、他にも、海舟が亡き西郷隆盛のため木下川(現・葛飾区)に建てた南洲留魂詩碑が移築されている。



建物外観
ネオゴシックスタイルの柱型4本が特徴的



勝海舟生誕200年

春宵の響生い立ち情報

■「洗足池 春宵の響」は、平成7(1995)年、洗足池西岸に三連太鼓橋(池月橋)が竣工したのを記念し、笛の名手で人間国宝の寶山左衛門(たからさんざえもん、1922-2010年)氏をお迎えして始められたものです。



■アクセス 東急池上線「洗足池」駅 徒歩8分
東急バス「洗足池」バス停 徒歩8分

■「洗足池 春宵の響」実行委員会構成団体

- (公社)洗足風致協会
- 雪谷地区自治会連合会
- 千束地区自治会連合会
- (一社)大田観光協会
- 大田区商店街連合会
- 大田区調布地区教育懇談連絡協議会
- (公社)東京青年会議所大田区委員会
- 日本工学院専門学校
- 大田区立大森第六中学校
- (公財)大田区文化振興協会



令和5年5月17日(水)

時間

午後6時30分～午後8時

開場:午後5時45分【雨天中止】

場所

洗足池西岸「池月橋」
立ち見(座席は300席)

主催

「洗足池 春宵の響」実行委員会／大田区
問合せ:「洗足池 春宵の響」実行委員会 事務局
電話:03-5744-1226
FAX:03-5744-1539

～ 曲目 ～

こうじょう つき
荒城の月

ながうた げんろくはなみおどり
長唄「元禄花見踊」より
～オープニングプログラム～

さんばそう
三番叟

笛・小鼓・大鼓による

ようきよく ほごろも
謡曲「羽衣」より

ながうた くるかみ
長唄「黒髪」
篠笛独奏

あまいろ かみ おとめ
亜麻色の髪の乙女
クロード・ドビュッシー作曲

さんぼみち
メロディの散歩道
おなじみの名曲をメドレーで

よ ちり いとま ちう やまめぐ
世の塵に暇申して山廻り
謡・仕舞・笛・囃子・ピアノによるコラボレーション

せんねん さくら
「千年の桜」より
福原徹作曲
中川俊郎ピアノパート作曲補佐

きぎ みつ
樹々の密
六世福原百之助(四世寶山左衛門)作曲

～出演者プロフィール～

笛



ふくはら とおる
福原 徹

寶山左衛門に師事。邦楽囃子笛方として、篠笛・能管の演奏活動を続ける。第1回演奏会「徹の笛」の成果により、平成13年度文化庁芸術祭大賞を受賞。東京藝術大学などの講師を歴任。



ふくはら ひやくたか
福原 百貴

笛を福原徹に師事し、福原百貴の名を許される。Jtrad Rock Band AKARAのTAKAとして国内やイタリア、フランス、ドイツで公演を行うなど、国外でも活動する。



ふくはら さとか
福原 邑佳

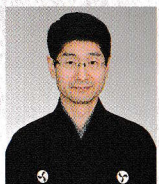
福原徹に師事。平成17年、福原邑佳の名を許される。平成22年、東京藝大大学院音楽研究科修士課程修了。平成24～27年、東京藝大音楽学部邦楽科教育研究助手。



ふくはら かのの
福原 寛乃

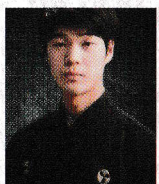
長唄唄方東音味見純の長女として生まれる。笛を福原寛師に師事。令和4年、福原寛乃の芸名を許される。現在、東京藝大大学院修士課程に在学中。学部在学中に安宅賞、常英賞、同声会賞を受賞。

謡



こばやかわ おさむ
小早川 修

シテ方観世流能楽師。重要無形文化財総合指定保持者。昭和36年生まれ。浅見真高に師事。昭和61年、東京藝大大学院修士課程修了。謡音誂会や能楽ワークショップも行う。



こばやかわ やすき
小早川 泰輝

シテ方観世流能楽師。1990年、小早川修の長男として生まれる。父及び、観世流職分の浅見真州、浅井文義に師事。2013年 東京藝大音楽学部邦楽学科能楽専攻卒業。

囃子



ふくはら ひやくのすけ
福原 百之助

常磐津文字蔵の長男として生まれる。祖父の四世寶山左衛門及び、望月太喜雄に師事。平成18年、七代目福原百之助を襲名。演奏活動の他、東京藝大等で講師を勤める。



ふくはら ゆうま
福原 遊馬

1998年七代目福原百之助の長男として東京に生まれる。幼少の頃より父、福原百之助に囃子を師事、笛を福原百貴に師事。邦楽囃子方 福原遊馬として演奏会、舞踊会等で活動を行う。

ピアノ



なかがわ としお
中川 俊郎

作曲家、ピアニスト。桐朋学園大学作曲科卒業。作曲を三善晃、ピアノを森安耀子各氏に師事。「Music Today'82」国際作曲コンクール第1位など受賞歴多数。日本現代音楽協会理事、日本作曲家協議会常務理事。

【共演】洗足池篠笛ワークショップ「笛福会」



撮影：篠塚 明